



# 日本植物分類学会 ニュースレター

No. 87

Nov. 2022

## 今号のトピックス

- 次期幹事について掲載しております。→ 2 ページ
- 2022 年度日本植物分類学会講演会のお知らせがあります！→ 2 ページ
- 日本植物分類学会第 22 回大会および総会のお知らせがあります！→ 5 ページ

## 目次

次期（2023 - 2024 年度）幹事について .....	2
お知らせ	
2022 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ .....	2
日本植物分類学会第 22 回大会（千葉大会）および 2023 年度総会のご案内 .....	5
植物関連雑誌のタイトル紹介 .....	9
書評	
いちごいろいろ - 地方名総覧 - .....	15
ふくしまスミレ図鑑 .....	15
会費納入のお願い .....	16
会員消息 .....	16

## 次期（2023 - 2024 年度）幹事について

### 庶務幹事 西野貴子

次期（2023-2024 年度）の幹事が下記のとおりに確定しました。図書幹事、ニュースレター担当幹事、およびホームページ担当幹事が交代しますので、2023 年 1 月 1 日からその連絡先が変わります。お間違えのないようご注意ください。

#### 事務局・庶務幹事（会務全般）

##### 西野 貴子（にしの たかこ）

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-2 大阪公立大学 大学院理学研究科

電話 / ファックス：072-254-9754/072-254-9932 電子メール：jimu@e-jsps.com

#### 会計幹事（入会申込，住所変更，退会，会費納入，購読申込など）

##### 國府方 吾郎（こくぶがた ごろう）

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1 国立科学博物館 植物研究部

電話 / ファックス：029-853-8423/029-853-8998 電子メール：kaikai@e-jsps.com

#### 図書幹事（バックナンバー・文献閲覧の問い合わせ）

##### 李 忠建（リー ちゅんごん）

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘 6 丁目 兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境評価研究部

電話 / ファックス：079-559-2001/079-559-2007 電子メール：tosho@e-jsps.com

#### ニュースレター担当幹事（ニュースレター原稿送付先）

##### 大槻 達郎（おおつき たつお）

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 滋賀県立琵琶湖博物館 生態系研究領域

電話 / ファックス：077-568-4811/077-568-4850 電子メール：newsletter@e-jsps.com

#### ホームページ担当幹事

##### 佐藤 博俊（さとう ひろとし）

〒606-8317 京都府京都市左京区吉田二本松町 京都大学 大学院人間・環境学研究科

電話 / ファックス：075-753-6804 電子メール：hp@e-jsps.com

## お知らせ

### 2022 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ

#### 講演会担当委員 高山 浩司

2022 年度の日本植物分類学会講演会を大阪学院大学とオンライン配信のハイブリッド形式で開催いたします。講演会場は十分な広さがあります（定員 288 名の階段教室）。新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として、受付での検温，手指のアルコール消毒，間隔をあけての着席を実施いたします。皆様お誘いあわせの上，ぜひご参加ください。なお，日本植物分類学会非会員の

方でもご参加いただけます。

現地もしくはオンライン参加に関わらず、以下のサイトからの事前登録にご協力ください。参加登録後、オンライン参加用の URL (Zoom) が自動でご登録のメールアドレスに送信されます。メールの返信が届かない場合は、ご登録のメールアドレスに誤りがある可能性があります。再度ご登録するか、講演会担当者 (高山) までご連絡ください。参加者多数の場合は、早期に受付を締め切らせていただく場合がございます。

新型コロナウイルスの影響等により、会場での開催が中止となる場合には、オンラインのみでの開催となります。開催方法が変更になる場合は、登録メールアドレスに 2022 年 12 月 8 日までに連絡をいたします。

参加登録：<https://forms.gle/gjtHM9c75a85cgm78>

日時：2022 年 12 月 10 日 (土) 午前 10 時～午後 5 時

講演会場：大阪学院大学 2 号館地下 1 階 2 号教室 (02-B1-02 教室)

講演スケジュールと演題：

10:00-10:10 ご挨拶 村上 哲明 (学会会長 / 東京都立大学)

10:10-11:00 高野 温子 (兵庫県立大学 / 兵庫県博)

「植物標本を活かして守る：デジタル化から OCR データ自動抽出、AI による標本自動判定まで」

11:00-11:50 野田 博士 (京都大学)

「日本産ヤマノイモ属植物の種認識：分子と形態から類似形態を持つ種を検討する」

(11:50-13:20 昼食)

13:20-14:10 伊藤 優 (摂南大学)

「世界の水草よもやま話」

14:10-15:00 工藤 洋 (京都大学)

「アブラナ科タネツケバナ属の分類・進化・生態：見分け方から最新の研究成果まで」

(15:00-15:10 休憩)

15:10-16:00 須貝 杏子 (島根大学)

「小笠原諸島における樹木種の進化：エコタイプの分化や集団動態」

16:00-16:50 加藤 雅啓 (国立科学博物館)

「分類学をいかに広げるかーカワゴケソウの調査研究から」

16:50-17:00 ご挨拶 林 一彦 (大阪学院大学)

※ニュースレター 8 月号でご案内した内容と一部講演者が変更しています。ご了承ください。

#### 【講演会場】

大阪学院大学 2 号館地下 1 階 2 号教室 (02-B1-02 教室)

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南 2 丁目 36 番 1 号 (電話：06-6381-8434)

\*オンラインのみの開催に変更した場合は、大阪学院大学では開催しません。

#### 【会場までのアクセス】

JR 東海道本線岸辺駅、阪急京都線正雀駅から大阪学院大学までともに徒歩 5 分。

交通アクセス <http://www.osaka-gu.ac.jp/guide/campus/access.html>

キャンパスマップ <http://www.osaka-gu.ac.jp/guide/campus/index.html>

#### 【その他】

参加費は無料です。過密を避けるため、今年度はティーサーバーを設置しません。飲み物等に



つきましては各自ご持参ください。講演会終了後の懇親会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催いたしません。

#### 【講演要旨】

##### 「植物標本を活かして守る：デジタル化から OCR データ自動抽出、AI による標本自動判定まで」

高野 温子（兵庫県立大学 / 兵庫県博）

人と自然の博物館では、岩槻邦男名誉館長から寄付を受けたことを契機に、アルバイトにも撮影可能な高精細標本デジタル画像撮影装置を開発し、現在までに約 25 万点の標本画像を取得した。撮影作業と並行して標本デジタル画像からのラベルデータ OCR（光学文字認識）自動抽出システムの開発を行い、標本データ入力作業の一部自動化・省略化・リモート化を実現してきた。また島根大・福島大・鹿児島大等と共同で、大量の標本画像を用いて AI による標本画像の種自動判定システムを構築した。本講演ではこれらシステムの紹介と、植物標本画像化のメリットおよび標本画像活用法についてお話したい。

##### 「日本産ヤマノイモ属植物の種認識：分子と形態から類似形態を持つ種を検討する」

野田 博士（京都大学）

熱帯を中心に、温帯まで分布域を広げるヤマノイモ属 *Dioscorea* は、世界に 600 種以上が知られている。多くの種はつる性で蒴果をつけるが、中には液果をつけるもの (*Tamus*) や木本化するもの (*Testudinaria*) もある。また、茎の左巻き／右巻き、葉の互生／対生、単葉／複葉、根茎／塊茎など属内に多様な形態を見ることができる。本講演では、旧世界のヤマノイモ属を中心に、多様なヤマノイモ属の進化の道筋をたどり、私達が一昨年提案した旧世界のヤマノイモ属の新しい分類を紹介する。また、日本産ヤマノイモ属については、特にヤマノイモ、ユワンオニドコロ、キールンヤマノイモ、大東島のルゾンヤマノイモの識別が難しかったが、私達は大東島のルゾンヤマノイモをキールンヤマノイモの誤同定と考えた。これを含め、私達が今年発表した日本産ヤマノイモ属の分類に関する研究成果についてもお話しする。

##### 「世界の水草よもやま話」

伊藤 優（摂南大学）

分類学における水生植物研究の難しさの一つは、その多くが世界に広く分布していることである。演者は学生時代よりこれまで、世界各地の池や沼、湖、川、海で現地調査をしながら、様々な分類群の分子系統を進めてきた。このうち、学位取得前後に行った研究については、以前、日本植物分類学会奨励賞受賞講演でお話させて頂いた。そこで本講演では、ポストドク時代に行った、海外の研究者との共同研究をきっかけに発展したガマ科ミクリ属やトチカガミ科イバラモ属、ホシクサ科ホシクサ属、ゴマノハグサ科キタミソウ属、オオバコ科アワゴケ属などの研究について、オムニバス形式で紹介したい。

##### 「アブラナ科タネツケバナ属の分類・進化・生態：見分け方から最新の研究成果まで」

工藤 洋（京都大学）

アブラナ科タネツケバナ属は世界各地に分布する約 200 種からなり、日本には 20 数種が分布する。この属の植物は同定・分類が難しく、また学名の取り扱いにも変更が生じている。例えばタネツケバナには、ヨーロッパの植物と同じ *Cardamine flexuosa* という学名をあててきた。ところが最近の研究によって、タネツケバナは別の植物であることが明らかとなり、正しい学名として *Cardamine occulta* が選定された。タネツケバナ属は、分類学的な研究だけでなく、生態、進化、外来生物、分子生態といった様々な視点での研究の対象となっている。見分け方から最新の研究

成果まで、様々なトピックスを取り上げて紹介する。

### 「小笠原諸島における樹木種の進化：エコタイプの分化や集団動態」

須貝 杏子（島根大学）

小笠原諸島は他の陸地と繋がったことのない海洋島であり、多くの固有種が分布し、特異な生態系が形成されている。私たちは、複数の樹木種において、野外調査と遺伝解析を組み合わせ研究を進めてきた。多様な環境に進出して、それぞれ遺伝的に分化したエコタイプを形成している分類群もあれば、形態的差異は大きいものの島内で遺伝的分化がみられない分類群もあることが分かってきた。本講演では、ホルトノキ属、ムラサキシキブ属、アカテツ属などを取り上げて、小笠原諸島での多様化や集団動態について紹介したい。

### 「分類学をいかに広げるかーカワゴケソウの調査研究から」

加藤 雅啓（国立科学博物館）

カワゴケソウ科は、雨期はずっと水没したままであるが、乾期になると露出して枯死する一方で開花結実するという生態的にも、形態的にも奇異な水生植物である。これまで東南アジアなど各地で調査を重ね、この植物のもつ「面白さ」（主観的ではあるが普遍性があるだろう）を引き出そうと努めてきた。それによって、ある地域に種属が原因不明ながら集中すること、3系統学的種が認められること、多様性の一部は非適応進化に因るかもしれないこと、2段階進化が起こったことなどが明らかになった。その他、着生植物の進化、溪流沿い植物の進化、ゼンマイの多様化・生物地理などの研究にも触れる。

#### 【問い合わせ先】

電話：075-753-4131（授業等で不在の場合があります。ご容赦ください）

メール：takayama@sys.bot.kyoto-u.ac.jp

## 日本植物分類学会第 22 回大会（千葉大会）および 2023 年度総会のご案内

### 第 22 回大会会長 綿野 泰行

日本植物分類学会第 22 回大会を、2023 年 3 月 1～5 日にハイブリッド形式で開催いたします。3 月 1 日にはポスター発表をオンラインで、3 月 3～5 日は千葉大学西千葉キャンパスにて口頭発表や総会、授賞式、受賞記念講演、懇親会、公開シンポジウムを開催いたします。皆様の参加を心からお待ちしております。

#### 【口頭発表会場】

千葉大学西千葉キャンパス「けやき会館」（千葉市稲毛区弥生町 1－33）大ホール

口頭発表、総会、授賞式、受賞記念講演、公開シンポジウム

#### 【各種委員会会場】

千葉大学西千葉キャンパス 理学部 4 号館

編集委員会（1 階 129 マルチメディア 1 教室）

評議委員会（2 階 229 マルチメディア 2 教室）

## 【日程】

- 2023年3月1日(水)～3月5日(日)  
3月1日(水) ポスター発表(オンライン; 昨年と同じく LINC Biz を使用する予定)  
3月2日(木) 移動日, 午後から編集委員会・評議委員会  
3月3日(金) 口頭発表  
3月4日(土) 口頭発表, 総会・授賞式・受賞記念講演, 懇親会  
3月5日(日) 口頭発表, 午後から公開シンポジウム

## 【第22回大会WEBページ】

<https://jsps22.e-jsps.com/>

発表・参加申込および発表要旨提出の方法や大会プログラムなど, 第22回大会の情報を随時アップロードいたします。

## 【問合せ先】

〒263-8522 千葉県稲毛区弥生町1-33 理学部生物学科系統研  
日本植物分類学会第22回大会実行委員会  
TEL. 043-290-2820, 2819 FAX. 043-290-2874 E-mail: jsps2023chiba@gmail.com  
お問い合わせの際はできるだけ電子メールをお使いください。メールのタイトルは「大会問合せ」として下さい。

## 【発表・参加申込方法】

新型コロナの状況(懇親会開催の有無)を見極めるため, 来年(2023年)1月から第22回大会WEBページに申し込み窓口(Google フォーム)を作成いたします。短い申し込み期間となりますが, 何卒ご協力お願いします。ご不明な点がございましたらメールの件名を「大会申込確認(参加者氏名)」とし, jsps2023chiba@gmail.com 宛てにご連絡下さい。  
本大会では郵送による申込みを実施いたしません。インターネットをご利用できない方は大会実行委員会まで早めにご相談下さい。

大会には日本植物分類学会会員・非会員を問わずにご参加いただけますが, 口頭発表およびポスター発表の演者(実際に発表する方)は, 特に大会実行委員会から依頼した場合を除き, 会員に限ります。非会員の演者(実際に発表する方)は, 申込と同時に日本植物分類学会への入会手続きをお願いします。

## 【大会参加・発表申込の締切日】

1) 演者(実際に発表する方): 発表・参加申込 / 大会・懇親会参加費振込

1月20日(金)

2) 演者以外: 参加申込 / 大会・懇親会参加費振込

1月27日(金)

1月28日(土)以降は大会・懇親会参加費が増額されますので, なるべくお早めにお申し込みください。また, 1月28日(土)以降は振込まず, 当日参加をご利用ください。

## 【大会発表賞へのエントリー】

大会発表賞へのエントリーは, 日本植物分類学会の会員で, パーマネント・ポストについていない研究者(年齢制限はありません)で, 筆頭発表者かつ演者(実際に発表する方)本人に限ります。大会発表賞へエントリーされる方は, 発表・参加申込の際に Google フォーム上の

項目に従って選択してください。

#### 【発表要旨の提出】

発表要旨は「要旨提出フォーム」へ記入していただきます。1月21日以降、発表申込者にメールで「要旨提出フォーム」へのリンクおよび要旨のひな型等をお知らせします。

**締め切り：1月27日（金）24:00**

#### 【参加費】

● 大会参加費（発表要旨集1冊代金を含む）

- 1) 事前申込（1月27日（金）までの振込 一般 4,500円、学生 2,500円
- 2) 当日参加申込 一般 5,500円、学生 3,500円

発表しない学生の参加費は無料とします。要旨集はPDFファイルのみとなります。

● 懇親会参加費

- 1) 事前申込（1月27日（金）までの振込）一般 7,000円、学生 4,000円
- 2) 当日参加申込 一般 8,000円、学生 5,000円

● キャンセルポリシー

原則として、事前参加費申込の期日（1月27日（金））以降のキャンセルに対しては、返金いたしません。オンサイトでの開催が中止になった場合でも、大会参加費に変更はありません。懇親会の開催が中止になった場合、希望者に対して懇親会参加費を返金いたします。

#### 【参加費送金先】

郵便振替口座番号：00170-3-767949

口座名義：日本植物分類学会大会実行委員会

**送金は来年1月以降に、大会WEBページに発表・参加申込窓口が出来てから行ってください。**

本ニュースレターに同封した、又は郵便局備え付けの振込用紙にて、振込金額の内訳（大会参加費、懇親会参加費）を通信欄に必ず記入の上、ご送金ください（振込手数料はご自身でご負担ください）。振込者と参加者は同一にしてください。

**参加申込の際に、振込日と振込郵便局をご入力いただきますので、振込を終えてから参加申込を行なってください。**

銀行等から振込む場合はゆうちょ銀行の受取口座として下記内容をご指定下さい。

店名（店番）：〇一九（ゼロイチキョウ）店（019）預金種目：当座 口座番号：0767949

#### 【懇親会】

千葉大学西千葉キャンパス 生協フードコート2階（お酒持込可）

新型コロナの影響等により懇親会の開催が中止となる場合には連絡をいたします。

#### 【昼食】

大会実行委員会による、お弁当の準備はいたしません。3月3日（金）には、生協フードコートが利用できます。各自お弁当を用意いただくか、西千葉キャンパス周辺の飲食店をご利用下さい。グルメマップは用意する予定です。

#### 【公開シンポジウム】

「今身近な自然に迫る危機」というタイトルで、主に外来種問題をとりあげたシンポジウムを予定しています。一般公開、参加無料です。Zoom ウェビナーにてオンライン配信も行う事を予

定しています。詳細は内容が固まり次第、大会ホームページ等でお知らせいたします。

### 【発表の要領】

#### ● ポスター

昨年度大会と同様に LINC Biz を用いる予定です。

**ポスターサイズ**：サイズや縦横比に制限はありません（1 ファイル当たり 100MB まで）。ファイルの拡大表示ができますので、通常の紙ポスターサイズ（A0 や A0 ノビなど）で作成して頂いて問題ありません。ただし、LINC Biz では 16:9 または 4:3 などの PC やタブレットの画面に合った横長の縦横比のポスターを推奨しています。複数のファイルの投稿が可能で、分割表示することもできます。複数枚構成の場合、全体のボリュームは通常のポスター 1 枚分に相当する程度の量に収めるようにしてください。

**静止画のメディア形式**：PDF 形式は特に Mac OS において文字化け等を引き起こす可能性があるため、JPEG または PNG などの画像形式でのアップロードを推奨します。やむを得ず PDF 形式を使用する場合は、PDF 出力の前にフォントのアウトライン化をしていただくか、印刷設定で PDF 出力をお願いします。

**静止画以外のメディア形式**：動画や音声ファイルのアップロードも可能です。動画では MP4、音声では MP4 audio が対応しています。ただし、動画や音声は、発表賞審査の時の評価には含まれません。

#### ● 口頭発表

千葉大学西千葉キャンパス「けやき会館」にて対面で行う予定です。プログラム上の発表時間は、講演 12 分、質疑応答 3 分の計 15 分です。ただし、次の発表者への交代をスムーズにするために、14 分 30 秒で 3 鈴を鳴らします。3 鈴が鳴りましたら、次の方への交代をお願いいたします。オンライン配信するか等、詳細が決まり次第、大会 WEB ページ等にてお知らせいたします。

発表資料作成にあたっては、バリアフリープレゼンテーションに関するサイトをぜひ参考にしてください。<https://tsutawarudesign.com/universal1.html>

### 【託児について】

託児室の開設を前向きに検討しています。ご希望の場合は 12 月末日までに大会実行委員会まで具体的内容をお知らせください。

### 【宿泊施設】

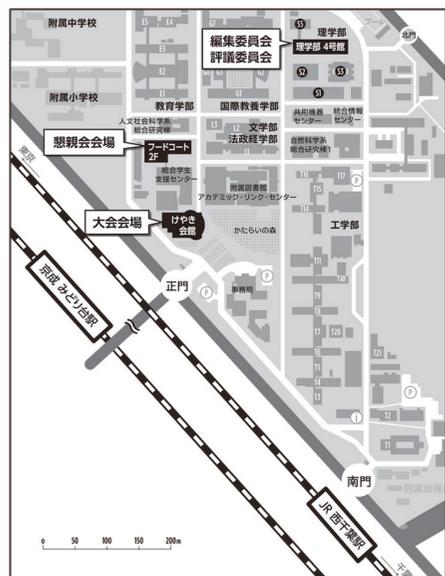
本大会では宿泊場所のあっせんは行いません。千葉大学周辺には千葉駅（JR 総武線・西千葉の隣駅）を中心に宿泊施設は多数ありますので、各自で宿泊場所をご確保ください。

### 【大会会場へのアクセス】

千葉大学西千葉キャンパスへのアクセスについては、千葉大学の WEB ページを参考にして下さい。  
<https://www.chiba-u.ac.jp/access/>

JR 西千葉駅をご利用の場合は、北口側に出て、大学南門を經由して徒歩 7 分です。

京成電鉄みどり台駅をご利用の場合は、大学正門を經由して徒歩 7 分です。



## 植物関連雑誌のタイトル紹介

## 富山県中央植物園 中田政司

## ○利尻研究

〒097-0311 利尻郡利尻町仙法志字本町136 利尻町立博物館

<http://www.town.rishiri.hokkaido.jp/rishiri/1143.htm>

第41号 2022年3月—杉浦直人・南 雅之：礼文島におけるアザミオオハムシ成虫の餌植物に関する記録

## ○ひがし大雪自然館研究報告

〒080-1408 河東郡上士幌町字ぬかびら源泉郷48-2 ひがし大雪自然館

<http://www.ht-shizenkan.com/s/study/c/1>

第8号 2021年3月—丸山まさみ：北海道大雪山国立公園，然別湖の水生植物相：調査開始後10年目（2020年）までの植物相と群落の状況／乙幡康之：北海道十勝地方から確認されたカワゴケ属（カワゴケ科，蘚類）

第9号 2022年3月—奈良泰世：糠平ネイチャートレイル周辺のきのこ（予報）／乙幡康之：北海道本別町，義経山から確認されたフトゴケ（フトゴケ科，セン類）

## ○青森県立郷土館研究紀要

〒030-0802 青森県青森市本町2丁目8-14 青森県立郷土館

<https://www.kyodokan.com/aboutus/#research02>

第43号 2019年3月—齋藤信夫・太田正文：青森県中南津軽地域の植物調査（1）／太田正文：青森県中南津軽地域のコケ植物調査（1）／太田正文：青森県コケ植物分布ノート（4）

第44号 2020年3月—太田正文：青森県中南津軽地域の植物調査（2）／太田正文：青森県中南津軽地域のコケ植物調査（2）／太田正文：青森県コケ植物分布ノート（5）

第45号 2021年3月—齋藤信夫・太田正文・片山卓忠：青森県中南津軽地域の植物調査（3）／太田正文：青森県中南津軽地域のコケ植物調査（3）

## ○秋田自然史研究

〒010-0873 秋田市千秋城下町8-18 田中政行方 秋田自然史研究会

<http://akita-nathist.o.oo7.jp/mokuji.htm>

第78号 2021年2月—高田 順：秋田県産ヨモギ属の検討（3）—花部の形態観察—／高田 順：秋田県産ヨモギ属の検討（4）—外来種の分布—／阿部裕紀子：秋田県鹿角市に産するミチノクサナギイチゴ（バラ科）について／阿部裕紀子：ノヤマトンボ（ラン科）秋田県に産す／沖田貞敏：アブラガヤ属帰化植物 *Scirpus cyperinus*（新和名アメリカアブラガヤ）とアブラガヤとの雑種（新和名タマガワアブラガヤ）について／沖田貞敏：秋田県植物分布資料（14）／菊地卓也：セダム2種 補遺

第79号 2022年1月—藤原陸夫・阿部裕紀子：秋田県産ムラサキマユミ *Euonymus lanceolatus* Yatabe（ニシキギ科）／阿部裕紀子：秋田県新産の帰化植物／高田 順：秋田県産ヨモギ属の検討（5）—オオヨモギの変異—／高田順：秋田県産ヨモギ属の検討（6）—紡錘型瘦果をもつ植物群—／沖田貞敏：大仙市中沢湿原のカナダコウガイゼキショウについて／沖田貞敏：秋田県植物分布資料（15）／ 菊地卓也：ツボミオオバコ，秋田県にも出現

## ○群馬県立自然史博物館研究報告

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1 群馬県立自然史博物館

[http://www.gmnh.pref.gunma.jp/research/report\\_rese.html](http://www.gmnh.pref.gunma.jp/research/report_rese.html)

第25号 2021年3月—大森威宏：群馬県からハウライシダ *Adiantum capillus-veneris* L. とイヌケホシダ *Thelypteris dentata* (Forssk.) E. P. St. John を記録する／大森威宏：群馬県立自然史博物館宮前俊男コレクションの顕著な尾瀬産維管束植物標本

第 26 号 2022 年 3 月—朱宮丈晴・伊藤彰伸：人工林から自然林への復元技術の開発—日照条件からみた人工林の伐採幅の検討—

○茨城県自然博物館研究報告

〒306-0622 茨城県坂東市大崎 700 ミュージアムパーク茨城県自然博物館

<https://www.nat.museum.ibk.ed.jp/materials/research/report/>

第 23 号 2020 年 12 月—糟谷大河・小原功子・梅内基裕・伊藤彩乃・小幡和男：筑波山に自生するホシザキユキノシタの花弁形態の変異／小幡和男・田中信行・岡 利雄：筑波山におけるシダ植物の垂直分布／鶴沢美穂子・杉村康司：茨城県妙岐ノ鼻（浮島湿原）のコケ植物相

第 24 号 2021 年 12 月—柿嶋 聡・内山治男・安嶋 隆・栃原行人・板垣ひより・伊藤彩乃・鶴沢美穂子：茨城県におけるサトイモ科テンナンショウ属ヤマジノテンナンショウの初記録およびオオマムシグサの生育状況／中庭正人：茨城県沿岸の絶滅した海藻（1895 - 2018）／栗原 孝・小幡和男：茨城県涸沼川およびその周辺の維管束植物相

○小笠原研究年報

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1 東京都立大学 小笠原研究委員会

[https://www.comp.tmu.ac.jp/ogawara/annual\\_report.html](https://www.comp.tmu.ac.jp/ogawara/annual_report.html)

第 45 号 2022 年 5 月—小野塚瑞季・大澤剛士：小笠原父島における外来植物アオノリュウゼツランの利用可能性

○神奈川自然誌資料（41 号より完全オンライン版）

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館

<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1599725880823/index.html>

第 42 号 2021 年 3 月—大井和之・岸しげみ・一ノ瀬友博：藤沢市に生育するクゲヌマランの遺伝子解析／洲澤 譲・洲澤多美枝：酒匂川（神奈川県）で採集された外来種ミズワタクチビルケイソウ／大井和之・大西 亘：DNA バーコーディングで明らかにされた真鶴半島におけるビロウ *Livistona chinensis* (Jacq.) R.Br. ex Mart. (ヤシ科) の野生化／田中徳久：2018 - 2020 年に見出した神奈川県の地域植物相の重要な記録となる標本

○横須賀市博物館研究報告（自然科学）

〒238-0016 横須賀市深田台 95 横須賀市自然・人文博物館

[http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/?s=研究報告\(自然科学\)&mode=6&kind=研究報告\(自然科学\)](http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/?s=研究報告(自然科学)&mode=6&kind=研究報告(自然科学))

第 68 号 2021 年 3 月—山本 薫・辻 功：横須賀市の復田棚田に出現したミズオオバコ

○長野県環境保全研究所研究報告

〒381-0075 長野市北郷 2054-120（飯綱庁舎）長野県環境保全研究所

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/johotekyo/kenyuhokoku/hozen/index.html>

第 16 号 2020 年 3 月—浦山佳恵・須賀 丈・畑中健一郎・連 美綺：長野県における盆花採りの衰退と野の花の生育地の消失／栗林正俊・浜田 崇：飯綱高原のカラマツ人工林における 2018 ~ 2019 年の気象観測

第 17 号 2021 年 3 月—大上迪士・遠藤昭太・平田識穂・佐藤光彦・高野（竹中）宏平・植木玲一：ヒメザゼンソウ（*Symplocarpus nipponicus*）の 2014-2016 年の個体群構造、開花及び葉数と葉サイズ／尾関雅章・栗林正俊：UAV を用いたカラマツ人工林の葉フェノロジーの観測

○富山市科学博物館研究報告

〒939-8084 富山県富山市西中野町 1-8-31 富山市科学博物館

<http://www.tsm.toyama.toyama.jp/?tid=100115>

第 45 号 2021 年 3 月—佐藤 卓・太田道人：富山県に自然分布するイチリンソウ属植物の分布の特徴

／藤田将人・増淵佳子・岩田朋文・清水海渡・太田道人：富山市山岳域自然調査報告（2020）

第46号 2022年3月—坂井奈緒子・金子芳治・田村正次：富山県におけるカワゴケの分布と生育地の变化／佐藤 卓・太田道人：富山県に自然分布するキジムシロ属植物（狭義）の分布の特徴／藤田将人・岩田朋文・吉岡 翼・清水海渡・太田道人：富山市山岳域自然調査報告（2021）

### ○富山県中央植物園研究報告

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42 富山県中央植物園

<https://www.bgtym.org/research/>

第26号 2021年3月—兼本 正：沖縄島に侵入した特定外来種ツルヒヨドリノ核型（英文）／山下寿之：富山県中央植物園に植栽されたウメ60品種の開花に及ぼす気温の影響—2015～2020年の開花フェノロジー／中田政司：準絶滅危惧種ワカサハマギク沿岸個体群の40年目の追跡調査—脅威要因として追加された野生動物の影響／高橋一臣：メダケ属リュウキュウチク節植物の葉の表皮構造（予報）／早瀬裕也・大原隆明：富山県におけるスズカマムシグサ（サトイモ科）の自生地／東 義詔・草間 啓・木村知晴・川窪伸光・稲村 修：富山県魚津港（南地区）で見つかったヒメイカとコウイカに産卵されたアマモ群落／志内利明・早瀬裕也：タイヨウフウトウカズラの冷蔵種子保存が発芽に及ぼす影響／吉田めぐみ・和久井彬実・高橋一臣：立山地域における特定植物群落の40年間の変化（2）／中田政司：富山県黒部峡谷産オオイワインテン（キク科）の染色体数（英文）

第27号 2022年3月—兼本 正：台湾産ウライソウの核形態（英文）／和久井彬実：立山浄土山に生育するコケモモの交配システム（英文）／志内利明・魯 元学・王 仲朗：中国雲南省産二型花柱性植物ニオイグサ（アカネ科）の花形態と分布様式／高橋一臣：シラシマメダケの葉の表皮構造／東 義詔・不破光大・草間 啓・川窪伸光・稲村 修：富山県朝日町宮崎漁港の船揚場斜路で見つかったアマモ群落／吉田めぐみ・和久井彬実・高橋一臣：立山地域における特定植物群落の40年間の変化（3）／嶋崎太郎：奥大日岳の登山道沿いの維管束植物相／嶋崎太郎：立山連峰薬師岳周辺登山道沿いの維管束植物相／早瀬裕也・桐山 哲：ツヤハダゴマダラカミキリ *Anoplophora glabripennis* の富山県中央植物園への侵入とその被害（速報）／西村幸芳：富山市におけるプラタナスグンバイの発生／中田政司：富山県中央植物園に保存されているミコシギク（キク科）の核型（英文）／中田政司：富山県に野生化したサジタリア（オモダカ科）の核型（英文）

### ○富山の生物

〒937-0857 魚津市三ヶ 1390 魚津水族館内 富山県生物学会

<https://toyamaseibutu.mizubasyou.com/zassi.htm>

第59号 2021年3月—堀田桃花・福田有希子・近藤恭子・佐藤 卓・松村 勉・氷見栄成・杉田久志・金子靖志・岡本彩可：富山県小矢部川中上流域の森林構造／佐藤 卓：2019年全国ブナ結実状況／長井幸雄：袴腰山の植物相の概況

第60号 2022年3月—小倉恭子・福田有希子・堀田桃花・佐藤 卓・松村 勉・金子靖志：富山県笹川流域の森林構造／杉田久志・長谷川幹夫：富山市細入村唐堀山のブナ大径林の林分構造／鈴木浩司：富山県における海岸植物の分布の現状／長井幸雄：高峰山の植物相の概況／佐藤 卓：2020年全国ブナ結実状況／佐藤杏子・澤田瑞希・山崎貴博・岩坪美兼：能登島のセイヨウタンポポ（キク科）の倍数性

### ○石川県白山自然保護センター研究報告

〒920-2326 石川県白山市木滑又4 石川県白山自然保護センター

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/hakusan/publish/index.html>

第47集 2020年12月—大石佳織・森 由利子・白井伸和・八神徳彦・南出 洋・後藤理子：根倉谷園地の植生調査，2020／八神徳彦・野上達也・伊丹えつ子：石川県のブナ科3種の結実予測とツキノワグマの出没状況，2020

第48集 2021年12月—佐野沙樹・関根万里菜・中山祐一郎・柳生敦志・稲葉弘之・野上達也：白山南竜ヶ馬場とその周辺におけるハクサンオオバコ個体群の現状／八神徳彦・小谷二郎：リタートラップによ

るブナ・ミズナラの雄花序落下量と着果度調査の検証／八神徳彦・野上達也・伊丹えつ子：石川県のブナ科樹木3種の結実予測とツキノワグマの出没状況，2021

#### ○石川県立自然史資料館研究報告

〒920-1147 石川県金沢市銚子町リ441 石川県立自然史資料館

[https://www.n-muse-ishikawa.or.jp/?page\\_id=152](https://www.n-muse-ishikawa.or.jp/?page_id=152)

第10号 2022年3月—本多郁夫：石川県におけるキンキエンゴサクとヤマエンゴサク：同定のポイント／脇 慎之介・高木政喜・寺島拓哉・堀口和真・北村俊平：石川県の海浜における外来植物アブラナ科オニハマダイコンの分布と在来植生との関係

#### ○福井市自然史博物館研究報告

〒918-8006 福井県福井市足羽上町147 福井市自然史博物館

<http://www.nature.museum.city.fukui.fukui.jp/shuppan/kenpou/kenpou.html>

第67号 2020年12月—河崎晃博：足羽山におけるモミを含む落葉広葉樹二次林の林分構造からみた植生遷移の可能性／多田雅充・櫻井知栄子：法恩寺山におけるヤマトキソウの生育状況

第68号 2021年12月—榎本博之・阪本英樹：福井県で確認されたコクラン *Liparis nervosa* (Thunb.) Lindl. の生育地と個体数 (2014-2020) の記録

#### ○岐阜県植物研究会誌

〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸 岐阜大学教育学部生物学教室植物分類研究室 岐阜県植物研究会

第34巻 2019年12月—後藤稔治：各務原丘陵 (岐阜県各務原市) におけるシデコブシ群落と立地としての微地形との関係／後藤稔治：大平賀湿地 (岐阜県富加町) におけるシデコブシ群落と立地としての微地形との関係／天本匡吾・西畑和輝・井上侑哉・須山知香・嶋村正樹・山口富美夫：岐阜県産蘚類チェックリスト／清水英彦：岐阜県におけるツルミヤマカンスゲ (カヤツリグサ科) をめぐる経緯／高橋 弘・村瀬正成・福岡義洋・藤井伸二：岐阜県のノジテンツキ (カヤツリグサ科)

第35巻 2020年12月—清水英彦・福岡義洋：岐阜県初記録のホザキマスカサ／伊藤 玄・安藤志郎：岐阜県における標本を伴うオオバナイトタヌキモの野生化の確認およびイトタヌキモ類の分布状況／福岡義洋・高橋 弘・箕浦博之：岐阜県のコタネツケバナ／福岡義洋・藤井伸二・高橋 弘：岐阜県のウキシバ／福岡義洋：岐阜県のマルバタネツケバナ／福岡義洋：岐阜県のウンヌケモドキ／福岡義洋：岐阜県のシロネ／福岡義洋：岐阜県のセキヤノアキチョウジ／福岡義洋・清水英彦：岐阜県のカタバウシノケグサ／福岡義洋：岐阜県初確認のハナガサモドキとポンポンアザミ／安藤志郎：岐阜県におけるミズキカシグサ *Rotala rosea* の生育確認／荻山恒弘・高水正夫・楯 千代子・箕浦博之・安井佳代：岐阜県内でツカモトハコベを確認／高橋 弘・大塚英樹・井上好章・箕浦博之：岐阜県植物誌の発刊後に岐阜県で確認されたラン科4種／後藤稔治・川村智子・酒井英二・田中俊弘：乗鞍岳高山帯のコバイケイソウとオオバイケイソウの雑種について／後藤稔治：植生遷移に関する倉内論文について／須山知香・可児美紀・山崎玲子・植田邦彦：園芸植物ヨウシュコナスビ (サクラソウ科) 岐阜県内での逸出生育情報および正しい和名

第36巻 2021年12月—玉木一郎・籠橋まゆみ：ハナノキ自生地の西限／後藤稔治・川村智子・酒井英二・田中俊弘：乗鞍岳高山帯におけるコバイケイソウ・オオバイケイソウ群落の種組成と立地／後藤稔治：前沢湿地 (岐阜県御嵩町・瑞浪市) の湿地性植物群落／花田雄亮・山口富美夫・石田 仁：岐阜大学位山演習林大径木天然林の蘚苔類相／櫻井潤弥：岐阜県初記録のホオノカワシダ (オシダ科)／高橋 弘・野口 勇・井上好章：岐阜県でヒメバイカモを確認／高橋 弘・三谷有幸岐阜県で確認されたキンセイラン (ラン科)／高橋 弘・山崎玲子・箕浦博之・土屋寿美：岐阜県のミヤマトキソウ (ラン科)／高橋 弘：岐阜県で確認されたオオケタネツケバナとエチゼンオニアザミ／高野裕行：岐阜県のヒノキバヤドリギ *Korthalsella japonica* (Thunb.) Engl. / 荻山恒弘・箕浦博之・安井佳代：ネビキミヤコグサの新産地／荻山恒弘：シダ植物雑記 (2) - 岐阜県植物誌に未記載のシダ植物 (1) - / 後藤稔治：植生遷移に関する倉内論文について (その2)

## ○鳳来寺山自然科学博物館館報

〒441-1944 愛知県新城市門谷字森脇6 鳳来寺山自然科学博物館

<https://www.city.shinshiro.lg.jp/mokuteki/shisetu/shiryokan/houraijisan/shop.files/R4kanpou.pdf>

第47号 2018年3月—中西 正：ミカワバイケイソウ，タイプ産地の植生（1）

第48号 2019年3月—木村修司：新城市の地下生菌／中西 正：ミカワバイケイソウ，タイプ産地の植生（2）／中西 正：田之土里湿原—13年間の植生変化—

第49号 2020年3月—中西 正：ホソバシヤクナゲ群落とその立地—愛知県民の森の観察から—

第50号 2021年3月—中西 正：『愛知県民の森』の岩場植生 ヒカゲツツジ群落・コアブラツツジ群落・ミツバツツジ群落

第51号 2022年3月—中西 正：寒狭峡のサツキ群落／中西 正：伊良湖岬古山の縞枯れⅠ．階層構造の変化

## ○ため池の自然

〒467-8610 名古屋市瑞穂区汐路町3-40 名古屋女子大学食品衛生学研究室 杉山 章方 ため池の自然研究会

<https://tameike.site/journal60.html>（1号～59号）

第60号 2019年12月—浜島繁隆：ため池の水草が危ない／飯尾俊介：ため池周辺の植物の遷移について 通称「海上の森」篠田池水系の湿地を見る／國井秀伸：島根県松江市近辺のため池における水草相の30年間の変化／下田路子：広島県西条盆地のゴルフ練習場に隣接する2か所のため池の水草の消長の違い／山本和彦：尾鷲市須賀利大池（海跡湖）におけるシカとカワウの問題—岸辺に成立するハマナツメ群落と照葉樹林の衰退—／中西 正：芦ヶ池—ため池から調整池へ—／山岡雅俊：名城公園おふけ池で見られた外来水草3種について

第61号 2020年12月—中西 正：豊橋市，向山大池の変遷／村松正雄：愛知県のセトヤナギスブタその後／山崎真嗣：お互いが好む生育環境は異なるけれども，モウセンゴケ *Drosera rotundifolia* の近くに生えているのをよく見かける植物は何？—「環境庁（編）1978年版 日本の重要な植物群落」のデータを利用して／角野康郎：下田路子さんとため池の水草研究／福岡義洋：岐阜県植物誌が刊行されるまでの道のり／飯尾俊介：2020年度自然観察会記録—秋の才井戸流と東谷山湿地群を歩く—

第62号 2021年12月—富田啓介：知多半島常滑市久米地区における湧水湿地の履歴と植生変化／山本和彦：三重県紀北町諏訪池（海跡湖）におけるニホンジカの食害とカワウの生息にともなう水辺植物群落の変化／中西 正：写真でたどる向山大池の変遷／飯尾俊介：シデコブシはどこから来たか

## ○豊橋市自然史博物館研究報告

〒441-3147 愛知県豊橋市大岩町字大穴1-238 豊橋市自然史博物館

<http://www.toyohaku.gr.jp/sizensi/06shuppan/kenkyuuho/syuppan-kenpou.html>

第32号 2022年3月—西 浩孝・稗田真也・坂本博一・松岡敬二：豊橋市の影色池と唐池で確認された淡水動物と維管束植物

## ○三重自然誌

〒515-0835 三重県松阪市日丘町1386-17 清水善吉方 三重自然誌の会事務局

<http://www.zb.ztv.ne.jp/mie-shizenshi/book.html>

第15号 2017年12月—葛山博次：藓苔・地衣ノート（3）四日市市の巻

第17号 2021年6月—山本和彦：尾鷲市須賀利町（寺島含む）における維管束植物の記録／土永浩史：尾鷲市須賀利町（寺島含む）における藓苔類の記録／谷口雅仁・清水善吉：尾鷲市須賀利町（寺島含む）のキノコ／山本和彦・市川正人：「みえ生物誌—植物」補遺Ⅰ／葛山博次：国指定天然記念物「多度イヌナシ自生地」の保全活動報告

## ○南紀生物

〒646-0005 和歌山県田辺市秋津町965 土永浩史方 南紀生物同好会会誌編集部

[http://nankiseibutu.jp/nankiseibutu\\_hyosi.html](http://nankiseibutu.jp/nankiseibutu_hyosi.html)

**第 62 巻第 2 号** 2020 年 12 月—清水 理・大井俊徳・高須英樹：和歌山県中紀地方における在来タンポポと外来タンポポの分布状況—30 年間の変化—／原口展子・浜口昌己：宍道湖で採取したカヤモノリ *Scytosiphon lomentaria* (褐藻類)／山本好和・盛口 満・佐藤寛之・杉本雅志・杉本まゆみ・多和田 匡：沖縄県本部半島の 2 箇所、嘉津宇岳および八重岳の地衣類／土永知子：和歌山県産絶滅危惧植物 4 種の記録／山本好和：徳島県徳島市の 2 箇所を確認された地衣類／原口展子・浜口昌己：宍道湖境川で採取したイトグサ属の一種 *Polysiphonia subtilissima* (紅藻類)／山本好和：埼玉県産の興味ある地衣類 I

**第 63 巻第 1 号** 2021 年 6 月—山本好和・岡田慶範・上杉 毅：愛知県産の興味ある地衣類 I／山本好和・石原 峻：神奈川県産の興味ある地衣類 I／山本好和・多和田 匡：沖縄県浦添市浦添大公園の地衣類／土永浩史・山口一夫・深見訓士：和歌山県新産地衣類イワタケ

**第 63 巻第 2 号** 2021 年 12 月—山本好和・盛口 満・佐藤寛之・杉本雅志・杉本まゆみ・多和田 匡：沖縄県国頭村辺土名の地衣類／山本好和：京都府産の興味ある地衣類 V／山本好和：山口県岩国市錦川河畔の地衣類／廣津大侃：関東地方におけるネコノコンボウ (担子地衣) の新産地報告

### ○くろしお

〒646-0038 和歌山県田辺市末広町 15 - 21 藤五和久方 南紀生物同好会会報編集部

[http://nankiseibutu.jp/mokuj\\_i\\_kuroshio.html](http://nankiseibutu.jp/mokuj_i_kuroshio.html)

**No. 37** 2018 年 12 月—北野一夫：和歌山県における移入植物調査 II／北野一夫：和歌山県田辺市本宮町の大斎原のコウヨウザン (スギ科) の巨木／北野一夫：和歌山県におけるコガマ (ガマ科) の分布／北野一夫：和歌山県高野町で採集したマツカサススキ

**No. 38** 2019 年 10 月—北野一夫：和歌山県のため池における水草調査 (2013.1 ~ 2018.11)／北野一夫：和歌山県における移入植物調査 III 2000 ~ 2016／岡本大希・山本佳範：和歌山県で採集されたキバナノショウキラン／北野一夫：和歌山県みなべ町東本庄のハマセンダン (ミカン科)／北野一夫：明神山と植物／北野一夫：有田川町粟生まで北上したナチシダ (イノモトソウ科)／久保田 信・内藤麻子：和歌山県白浜町に所在する立ヶ谷干潟付近に生育する巨大なオオバコ的一种／久保田 信：和歌山県田辺市に所在する公園から消滅したコモウセンゴケ (モウセンゴケ科)／北野一夫：九度山東郷のミズニラ (ミズニラ科)

**No. 39** 2020 年 10 月—北野一夫：和歌山県における野草採集記録 (2008.9 ~ 2019.12)／北野一夫：太田岳と植物／北野一夫：古座川町洞尾のメタセコイヤの巨木／北野一夫：和歌山県有田地方のセキショウモ／北野一夫：北山村下尾井のヒメズリハの巨木と周辺植物／北野一夫：和歌山県におけるカンコノキ (トウダイグサ科) の分布／楠部紅鯨・石原希美・伊山太智：和歌山県日高地方における 2018 年台風 21 号と桜の狂い咲き

**No. 40** 2021 年 9 月—北野一夫：和歌山県におけるクスドイゲ (ヤナギ科) の分布／北野一夫：和歌山県のセンダン (センダン科) の巨木／小賀雅子・久保田 信：和歌山県有田市と上富田町で発見された穂の中軸が二股になったエノコログサ (イネ科)

### ○大阪市立自然史博物館研究報告

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23 大阪市立自然史博物館

<http://omnh-shop.ocnk.net/product-list/120> (大阪市立自然史博物館友の会ネットショップ HP)

**75 号** 2021 年 3 月—浜田信夫・馬場 孝・佐久間大輔：河川氾濫による水害に遭遇した植物標本のカビ汚染とその対策／藪内喜人・横川昌史・Purebee ARIUNSUREN・浜端悦治：浜端悦治博士が収集したモンゴル国産水性植物標本コレクションの概要 (英文)／横川昌史：2020 年に新型コロナウイルス感染症の影響で中止になった半自然草原の火入れの記録／山本好和・河合正人・井内由美・溝口恵敬・川上寛子：大阪府地衣類資料 IV. 豊国崎 (岬町) の地衣類相および興味深い 2 種について

**76 号** 2022 年 3 月—森井英樹・長谷川匡弘：小塩山のカタクリ集団における自家和合性の確認および自動自家受粉様式による果実形成／山之内崇志：奄美大島・加計呂麻島における 2018 年のセイヨウミズキノシタ (アカバナ科) の帰化状況と生態リスク／梶田結衣・遠山弘法・山本武能・内貴章世：

西表島の維管束植物 221 種の繁殖フェノロジー：ルートセンサスによる 3 年間の記録／梶田結衣・米倉浩司・遠山弘法・赤井賢成・天野正晴・阿部篤志・山本武能・設楽拓人・齊藤由紀子・横田昌嗣・内貴章世：沖縄県西表島における外来植物目録／横川昌史：大阪府におけるタシロランの記録と生育環境

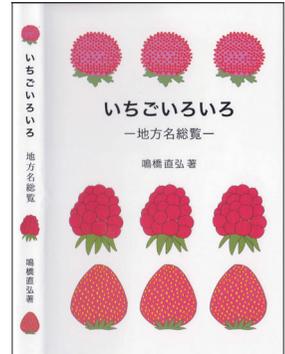
## 書評

### いちごいろいろ 一地方名総覧一

鳴橋直弘 / 著 自費出版 定価 3,200 円 (本体 2,800 円+送料 400 円)  
A5 版 236 ページ 2022 年 8 月

加藤雅啓 (国立科学博物館)

イチゴは数ある中で最も親しまれている果物の一つである。季節になるといろんな品種が店頭に並ぶので、(財布と相談しながら) 思案して好きなものを選ぶ。いちご狩りもたのしい。植物学的にどの部分を食べているのかも、しばしば話題に上る。著者の鳴橋さんは長年にわたってイチゴの仲間の分類生態などについて長く研究を続けてきた。そんな造詣が深い著者だからこそ本著が出版できたといえる。内容は、なじみの深いバラ科のイチゴの仲間ばかりでなく、イチゴという名のついた他科の種類も取り上げられ、2 部からなる。1 部「〇〇いちごと付く植物」では植物名が 90 ページにわたって列挙され、それぞれに名の由来が記載されているので、何かと便利である。2 部では各種類について地方名と植物の写真(カラーで 50 種)が載せられ、続いて引用、および参考文献がついていて、名前がついた経緯を知るうえで役に立つ。本著はイチゴという名前がついた植物をめぐる資料として貴重である。自費出版のため、お求めになりたい方は著者鳴橋直弘氏あてにメール (yjrqx660@ybb.ne.jp) でお申込みください。

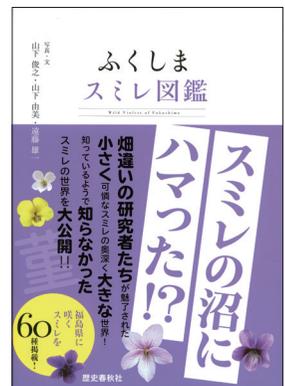


### ふくしまスミレ図鑑

山下俊之・山下由美・遠藤雄一著 / 著 歴史春秋社 / 発行  
定価 1,800 円 (税込み) B5 判 121 ページ 2022 年 4 月

黒沢 高秀 (福島大学)

著者(主に山下俊之さん)が福島県内で撮りためた 60 種類のスミレ属植物の写真に説明や分布が記され、福島大学貴重資料保管室植物標本室 FKSE の標本に基づく分布図が記されている。写真は各種類に大写しでまるでグラビアフォトのようなものを含み、その中にはオオバタチツボスミレのような稀産種や、ほとんど知られていないものを含む 5 種類の雑種の写真もあり、この本の大きな魅力となっている。また、花の色や毛の有無・多少などの変異を意識して、基本的に複数の地域の植物の写真が掲載されている。説明は主に図鑑類の記述そのものであるが、マキノスミレとシハイスミレ、いくつかの雑種などには、著者らの見解も記されている。目次や索引には含まれていないが、23 ページの「マキノスミレとシハイスミレの区別は難しい」、49 ページの「新種ユノダクスミレ(仮称)」、101 ページの「福島県のゲンジスミレは分布的に貴重」の 3 つのコラムには、著者らの未発表の研究が紹介されている。掲載は分布タイプ(福島県全域に分布する種、浜通り地方に偏在する種、点在する種、交雑種、など)の順になっており、一般の人や県外の人には多少戸惑うかもしれない。特定の県のスミレ属の図鑑であるが、写真のクオリティーの高さにより、県外の人でも十分に楽しめる本である。



この写真は帯付き本

## 会費納入のお願い

会計幹事 國府方 吾郎

本会の年度は1～12月で、会費は前納制となっております。つきましては、2023年度の年会費を2022年12月末までに納付してください。

- 同封された振替取扱票をご利用ください。
- 本号封筒の宛名ラベルに「納入済年度」とカッコ内に未納会費（2023年度分を含む）を赤字で表示しています。2023年度分まで納入済みになるよう、「会費」に表示されている金額をお振込みください。「会費」に「自動引落」と表示されている場合、自動振替となります（引落予定日：2023年2月26日）。
- 4年以上会費を滞納されている方は、規約第10条（2）に基づき除名を行っております。ご不明の点があれば、会計幹事までご連絡ください。健全な学会運営にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

### 編集室 より

今号は、講演会、大会・総会の案内があります。締切等、ご確認ください。また、書評もいただいておりますので是非お読みください。今号でニュースレター担当幹事の任期を終えます。読みやすい原稿作成のために試行錯誤を重ねた4年間でした。今期の課題は次期担当へ引き継がせていただきます。今までありがとうございました。（ニュースレター担当幹事 山本 薫）

入会申込、住所変更、退会届、会費納入、購読申込などは下記へご連絡ください。

〒305 - 0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

国立科学博物館 植物研究部

日本植物分類学会 國府方 吾郎（会計幹事）

Phone: 029-853-8423, Fax: 029-853-8998

E-mail: kaikei@e-jsps.com

会 費：一般会員 7,000 円, 学生会員 3,000 円,  
団体会員 8,000 円

郵便振替口座番号：00120-9-41247

加入者名：日本植物分類学会

令和4（2022）年11月20日印刷

令和4（2022）年11月25日発行

編集兼 神奈川県横須賀市深田台 95  
発行人 横須賀市自然・人文博物館  
山本 薫

発行所 茨城県つくば市天久保 4-1-1  
国立科学博物館植物研究部  
日本植物分類学会

\*ニュースレターに掲載された記事の著作権は日本植物分類学会が管理いたします。